

平成 25 年 9 月 12 日

各 位

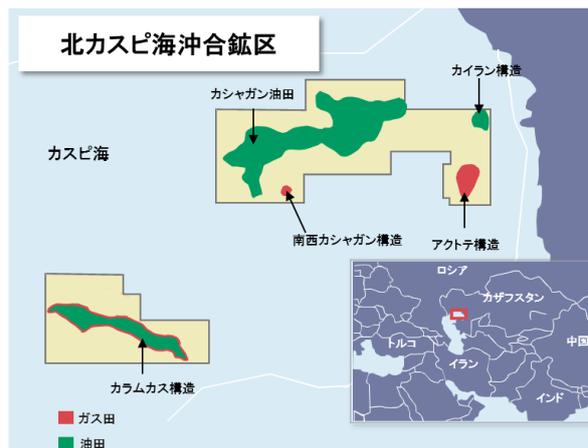
会社名 国際石油開発帝石株式会社
代表者名 代表取締役社長 北村 俊昭
(コード番号 1605 東証第一部)
問合せ先 広報・IR エニットジェネラルマネージャー 橘高 公久
電話番号 03-5572-0233

カザフスタン共和国 カシャガン油田の原油生産開始について

国際石油開発帝石株式会社（以下、当社）は、子会社であるインペックス北カスピ海石油株式会社を通じて、カザフスタン共和国北カスピ海沖合鉱区にある世界有数の巨大油田であるカシャガン油田の開発作業を進めておりましたが、本年 9 月 11 日より最初の生産井から原油の生産を開始しましたので、お知らせいたします。



カシャガン油田生産施設



鉱区位置図

カシャガン油田は、カザフスタン共和国アティラウ州の州都アティラウの南東約 80 キロ、水深 3～5 メートルの浅海の海底下 4,200 メートルに位置し、縦横 75km x 45km の規模を有する巨大油田です。1997 年に北カスピ海沖合鉱区の石油契約をカザフスタン政府との間で締結した後、2000 年にカシャガン油田を発見、さらに評価井掘削作業等の結果 2004 年に商業的発見宣言を行いました。当社は 1998 年に本鉱区権益を取得し、カザフスタン国営石油会社であるケーエムジー社（カザフスタン）、エニ社（伊）、エクソンモービル社（米）、シェル社（英）、トータル社（仏）およびコノコフィリップス社（米）とともに、これまで本プロジェクトの操業会社であるノース・カスピアン・オペレーティング・カンパニー社（North Caspian Operating Company (NCOC)）を通じて、開発作業を推進してまいりました。

このたびのカシャガン油田からの生産は、第一次開発分として開発・生産されるもので、

初期生産として日量 18 万バレルの生産量が計画されており、その後日量 37 万バレルまで生産量が引き上げられる予定です。

カシャガン油田は原始埋蔵量で 350 億バレルの原油を有する世界でも有数の巨大油田です。さらにこの鉱区では、この他に、これまでの探鉱・評価作業の結果、南西カシャガン、アクトテ、カイランおよびカラムカスト 4 つの既発見未開発構造を確認しております。これらの将来開発により、生産量が大幅に増加する可能性を有しております。

このたびのカシャガン油田の原油生産開始は、当社中長期ビジョンに即した上流事業の持続的拡大という成長目標の実現に不可欠のマイルストーンであり、誠に意義のあるものと考えております。同時にこれは、我が国へのエネルギー安定供給に貢献するものと考えております。当社としましては、カシャガン油田を始めとする本鉱区における石油開発事業について、今後とも、プロジェクトパートナーと協力しつつ、カザフスタン政府、日本政府及び政府関係機関並びに関係会社等多くの皆さまのご理解とご協力をいただきながら、積極的に取り組んでまいります。

以上

<参考情報>

1.カシャガン油田

位置など	カザフスタン共和国北カスピ海沖合鉱区 (約 5,575 km ²) カザフスタン共和国アティラウ州 アティラウ南東約 80 キロ 75km x 45km に及ぶ広さで、水深約 3~6 メートルの海底下 4,200 メートルに存在
権益比率	ケーエムジー社 16.81% エニ社 16.81% エクソンモービル社 16.81% シェル社 16.81% トータル社 16.81% コノコフィリップス社 8.40% インペックス北カスピ海石油㈱ 7.56% (注) オペレーターは各社が参加する操業会社である NCOC が担う
埋蔵量	原始埋蔵量 原油 350 億バレル 可採埋蔵量 原油 90~130 億バレル
生産量	カシャガン油田では段階的な油田開発が計画され、第一段階開発として日量 37 万(ピーク)バレルを生産ターゲットとしている(初期生産 日量 18 万バレル)。

国際石油開発帝石株式会社

INPEX CORPORATION

2. インペックス北カスピ海石油株式会社の概要

1998年8月に設立され、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構（JOGMEC）の出資及び債務保証を受けるとともに、石油資源開発株式会社及び三菱商事株式会社からの出資を受けている。

出資比率は、JOGMEC:50%、当社:45%、石油資源開発株式会社及び三菱商事株式会社:各2.5%。